

ますます重要になる国際教育 ～国際教育を自分事に～

田中 博(本学教職研究科准教授 国際教育・科学教育)

国際教育と聞くと、それは「英語科の先生の仕事」とか「留学や海外研修は国際部の先生の仕事」と思っています。どの教科の教員であっても、国際的な視点を含めて教材を捉えないと、大切な部分が抜けてしまうかもしれません。ますます重要になる国際教育を自分事として捉えてみませんか。先生方も生徒達も日常生活の中で、常に世界とつながっています。テレビやネットではこれまでまったく知らなかった国の状況も詳しく知ることができ、子供たちは、オンラインゲーム等で、そのような国の人達と普通に接点を持っていたりするような時代になっています。一時代前には国際教育は、いつか世界へ出て行った際に必要となる力を得る準備教育だったかもしれませんが、現在では、今、生きている世界がグローバルな社会になっています。不用意な一言が、遠くの国の人に嫌な思いをさせるかもしれませんし、何気ない一言が、地球の裏側の子供を救うことになるかもしれません。先生方も生徒達もそんな時代に生きているのです。さらに、生徒達が社会で活躍する際に、国際舞台での交渉力がたいへん重要となります。政治や経済の世界だけではなく、理系の研究者であっても、スポーツや文化の世界でも、海外の人とのコミュニケーションがなくてはならない社会なのです。

また、世界へ視線を向けることで、今まで以上に教育が楽しくなるのに、それを避けているなら本当にもったいないと思います。私自身も、長年、国際教育と聞いても、自分には関係ないと思ってしていました。2003年、偶然の出会いから、海外の学校とつながりができ、オーストラリアの先生と友達になりました。そこから急激に世界が広がり、多くの学校を訪ねたり、来てもらったりしました。オンライン技術の発達で、交流はどんどん加速しています。今では、日常的に世界中の友人と連絡を取り合ったり、オンライン会議をしたりというのが当たり前になりました。そのような交流の中で、

新しい視点を得られることは刺激的です。学校の中だけで考えてきた常識が覆される経験は実に痛快です。

何よりも、国際教育は子供達を大きく変化させます。現在の教育で最も大きな課題とも言える「主体性」の伸長にも影響があると考えます。教師が、子供達に一つの価値観しか与えられなければ、その座標軸で「頑張れ」としか言えないのです。それが子供達の意欲に響いても響かなくても。新しい価値観に触れることで、新しい座標軸が作られ、自己の学習についてメタ認知できるきっかけが得られるのです。海外研修に参加した生徒が、突然、学習や生活への向き合い方を変えられたということをよく経験します。これはまさにその例です。このことを教育へ積極的に取り入れることは、大いに可能性のある分野だと考えますし、実は、教員にとっても同じことなのです。

「英語ができないと無理ですか」とよく聞かれます。英語力は教員にとって益々重要度が増しています。是非、頑張って勉強してください。ただ、努力してもダメだったという場合も、あきらめることはありません。あなたがあきらめて損をするのは、あなたの生徒達です。私もそのダメだった一人です。不便ではありますが方法があります。優秀なアプリがいっぱいありますから。英語のメールで頻繁にやり取りをしますが、受け取ったメールは翻訳アプリで問題なく理解できます。こちらからの返事も日本語を翻訳アプリにかけます。それを読み直して、自分の知らない単語、表現は、知っている言葉へ変更します。稚拙な文章になってしまっていますが、間違えて伝えないための工夫です。対面で会った際は、気にせずへたくそな英語でやり取りをしながら、翻訳アプリも駆使します。皆さんにはそんな苦勞をしなくて良いように、英語の勉強を頑張ってほしいと思います。

国際教育に取り組み、教育への視点が変わると、教育という仕事がいかに面白くなります。是非、一歩踏み出してみてください。